

キャリア支援を考える 4 : 「自由に生きる」と言う無責任

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

(出版者 / Publisher)

教育新聞社

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

教育新聞 / 教育新聞

(号 / Number)

2543

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2005-05

キャリア支援を考える

キャリア・デザインという言葉は和製英語だろうといわれることがある。しかし、career design という英語は50年代から現れている。

一方、キャリア・アップなるものの方は、私は英米の人事管理の本では見たことがない。

キャリア・アップという言葉は日本の高度成長期からバブル経済までの「就職情報」の氾濫をもたらした業者の手になすものだろう。高い地位に昇る、高い給与を手に入れる、好き放題に暮らせる生き方がある…我慢しているところだ、どこかに「王子様」がいる、「青い鳥」がいる…という甘いおとぎ話もある。

意味では、人の目を顧みることがあったかもしれない。

しかし、世界に広がる多様で多数のチャンスを目のあたりにしたり、目のあたりにしたと思ひこんだりして、いくらでも自分で選択できるんだ、と思ひこんだ人々には、また別の不幸も待っていた。

おまけに誰が言いたしたのか、バブル経済時代から「自己実現」だの「自分探し」だの「自分らしく」だのという言葉も氾濫し始めた。君たちには無限の可能性がある、君たちには選択権があるのだ、自由に選びたまえ、自分探しをするんだ…。これほど無責任なげしかけはない、と思ひ思う。

アメリカのニューヨークの某ホテルで昼食をとったことがある。「コーヒーにぎれますか、紅茶にぎれますか」と聞かれて、紅茶、紅茶のリクエストがあった。何をやっているかを知

「自由に生きる」と言う無責任

トが10いくつもある。ようやく適当に選ぶと、ミルクかレモンか、と聞く。ミルクだと言つと、ミルクにも3種類あるからどれかを選べ、と言ふ。面倒になってきて「コーヒー」と言つと、

これまた20ぐらいあって…ええい、面倒だ、コーラだ、というかコーカクラウンか。コークと言つとクラシックかニューカタイエットか。クラシックというと今度はサイスを聞いてくる。ええい、水と言つとミネラルウォーターも数種類。部屋に帰ると90チャンネルのケーブルテレビが入っている。今、

るために、一局10秒ずつサーチしたって全部チェックするのに15分かかかる。あれがよかつたか、と見直すのにまた数分かかって、見つけた時には別の番組に変わっている。

選択肢が多い時代は適切な選択の訓練を受けていなければ、彷徨を続けたり、たじろいで足を踏み出せなくなってしまう。ろくなキャリアが歩めなくなる可能性がある。人生は短い、君に残された時間は少ない、君の力には所詮限界がある、この世は厳しい、選択肢は少ない…。こう厳しく言うことが、実は優しいキャリア支援なのだ、と思ひ思う。

とはいえ、君はこの職業に向いている。この業界・この会社が良い、とデキアイのお手紙で早めに決めてあげればよいというのでは決してないのである。

高度選択社会への単なる反動でキャリア統制されては、困るのである。

法政大学キャリアデザイン学部教授 川喜多 喬